気持ち一つに体育祭

常陸太田特別支援学校

高等部、小瀬高生ら参加

障害への理解を深めてもらおうと、地域の高校生などを招いた県立常陸太田特別支援学校（常陸太田市瑞龍町、白土良子校長）の体育祭が3日、同市新宿町の山吹運動公園市民体育館で開かれ、生徒たちが楽しみながら汗を流した。

リレーで力走する生徒たち＝常陸太田市新宿町の山吹運動公園市民体育館

2015年の開校後初となる同校の体育祭には、高等部の生徒70人と、常陸大宮市上小瀬の県立小瀬高から福祉コースの2、3年生15人、常陸太田市松平町の障害者支援施設「ひまわり」の利用者20人が参加。玉入れや綱引きなどでチームを組んだ生徒や利用者たちは、「頑張れ」などと声を掛け合いながら、力を合わせて勝利を目指した。

リレーで同支援学校の生徒などとバトンをつないだ小瀬高2年の鈴木涼太さん(17)は、「障害のある人と触れ合うのは初めてだったが、一緒に頑張っている姿を見て、応援したい気持ちになった」と話した。

2年後には本県で全国障害者スポーツ大会が開かれる。白土校長は「スポーツを通して気持ちが一つになり、心の垣根をなくしていってもらえれば」と期待した。

同支援学校では27日に小学部が常陸太田市立誉田小の児童を、11月2日に中学部が同市立瑞竜中の生徒を招いて、それぞれ運動会を行う。

（長洲光司）